

1. 概要

- ・研究課題... GLIP 英語科目「英語 A1」 “Summer Intensive English”
- ・開催形態... オンライン授業 + ハイブリッド型授業
 - 1 日目... Zoom によるオンライン授業
 - 2 日目以降 ... 大学構内での対面（研究講義棟 326 教室）と Zoom によるオンラインのハイブリッド型授業
- ・日程... 2022 年 7 月 25 日（月）～ 29 日（金）2 限 - 4 限
- ・参加者... 学生 25 名 / 担当教員 1 名（Professor Joe Ragsdale） / ティーチング・アシスタント 6 名

2. 実施内容

昨年度同様、2022 年度も開催を予定していたイマージョン合宿は中止を余儀なくされた。その代替として、大学構内での対面授業として、とくにスピーキング能力向上に特化した集中講義、Summer Intensive English を開講することとなった。授業開始直前まで、前面对面での開講を予定していたが、COVID-19 感染拡大、履修学生の感染状況を受け、初回授業は全面オンライン、2 日目以降は、対面とオンラインでのハイブリッド形式で授業がおこなわれた。担当教員による短いレクチャーとガイダンスをふまえて、学生が様々なグループワークやペアワークをおこない、集中的かつ大量に英語のスピーキングを主体とした活動をこなした。また、最終日のグループ・プレゼンテーションに向けて、同じ国・地域に興味があるメンバーでグループを構成し、その固定グループでプレゼンテーションの準備をすすめた。ティーチング・アシスタントが学生のグループに加わり、適宜助言を与えたり、グループでのディスカッションが円滑に進むよう助けたりした。また、常にティーチング・アシスタントがグループに加わることにより、履修学生すべてが授業中、英語を用いたアウトプットをおこなうよう徹底した。

1 日目: 7 月 25 日 (月)

初日は、学生は文化をめぐる諸概念の定義を確認し、「アイスバーグ理論」についてディスカッションをおこなった。加えて、アメリカ文化における価値観や慣習について担当教員がレクチャーした。授業内活動としては、ペアワークでのスピーキング・リスニング演習、ノートテイキングとディスカッションのスキルの修得が主なものとなった。アメリカ文化における価値観や慣習のレクチャーを通して、多くの発見があり、アメリカ文化あについて改めて考える機会となったようだった。また、ペアやグループでのディスカッションでお互いに意見交換したり、ミニクイズやペアでクイズの答えを確認したりする中で、担当教員による講義から得た知識をより深められているようだった。

2 日目: 7 月 26 日 (火)

2 日目は、まず担当教員がアメリカナイゼーションと文化伝播についてのレクチャーをおこなった。学生は、世界におけるアメリカ文化の諸相についてのレクチャーを聞き、ノートを取り、ディスカッションをおこなった。また、最終日のプレゼンテーションに向けての活動もおこなった。プレゼンテーションのうち、自分の発表担当部分を他のグループのメンバーの前でリハーサルするというものであった。課題として、各々が調べてきてわかったことを発表し、その後、オーディエンスから質問やフィードバックをもらった。学生はみな積極的に質問や意見交換をおこなっており、最終日のプレゼンテーションに役立つ有益なフィードバックをもらえているようだった。

3 日目: 7 月 27 日 (水)

3 日目は、学生が最終日におこなうことになるグループ・プレゼンテーションに向けたリサーチ内容をお互いにシェアし、ディスカッションやブレインストーミングをおこなった。プレゼンテーションでは、それぞれが選択した特定の地域におけるアメリカ文化・アメリカナイゼーシ

ヨンの問題を論じるという課題に取り組んだ。学生同士でリサーチ内容を検討しあった後で、ティーチング・アシスタントがそれぞれのグループに加わり、プレゼンテーションの準備をすすめた。学生はみな、自分の意見を共有し、有意義な討論の時間となっていた。また、担当教員による文化の種類について、異文化交流についてのレクチャーも聞いた。学生は、その後、学生同士でレクチャーの理解度を確認し、文化についての知識をさらに深めていた。

4日目:7月28日(木)

4日目は、グループ・プレゼンテーションで各自が担当する箇所について、別のグループの学生向けにプレゼンテーションの練習をおこなった。学生は、別のグループの学生からフィードバックを受け取り、質疑応答の練習をおこなった。また、学生自身の「アメリカナイゼーション」の経験について掘り下げたり、プレゼンテーションの内容についてさらにグループ内でディスカッションをおこなう機会が設けられた。

5日目:7月29日(金)

最終日は、それぞれのグループがパワーポイントを使用し、特定の地域(カナダ・イギリス・オーストラリア、東南アジア、スペイン・イタリア・フランス、インド、韓国、中国、インドを除く南アジア、の7グループ)におけるアメリカ文化、特にアメリカ文化・アメリカナイゼーションというテーマで、プレゼンテーションをおこなった。その後、すべてのプレゼンテーションについて、学生同士で意見交換をおこない、また教員とティーチング・アシスタントがフィードバックを与えた。また、プレゼンテーションから得た知見について、それぞれの学生がエッセイのかたちでまとめ、授業終了後に提出した。



全日程をとおして、学生は英語4技能を伸ばすために様々なクラスルーム・アクティビティに参加し、とりわけスピーキング、リスニング、プレゼンテーションのスキルを集中的かつ実践的に学んだ。事後アンケートにも、話す機会と聞く機会が特に多くあり、またこれらの技能が集中的に伸ばせたと回答している学生が多く、授業の目的を果たすような内容だったことがわかる。

授業内のやりとりはすべて英語でおこなわれ、ティーチング・アシスタントがつねに学生のグループに加わることで、すべての学生が適切なアドバイスを受けることができた。アドバイスは語学上のものにとどまらず、学生に模範を示すことで、英語で積極的に自分を表現するように学生を励まし、話しやすい環境作りや、意見を引き出す工夫を多くおこなっていた。事後アンケートからもティーチング・アシスタントの評価は高く、授業の満足度の高さにつながっているようであった。具体的には、「グループディスカッションの際などにスムーズに会話が続くようにトピックを提供するなど、アドバイスや支援をしてくれた」、「オープンな態度で話を聞いてくれたので、英語を話す際の恐怖心を克服できた。」などという感想がみられた。直前での開講形態での変更があったものの、担当教員の柔軟な対応により、ハイブリッド形式での授業運営もスムーズで、教室参加の学生、オンラインで参加の学生、ともに比較的満足度が高かったようである。

3. 写真

担当教員による講義の様子



課題に取り組む様子



教室にいるティーチング・アシスタントと学生が Zoom 上にいる学生と会話する様子



以上

世界言語社会教育センター 特任講師
GLIP 英語科目コーディネーター 川本 渚凡